第４回ワーキング・グループ（スポーツ関係）における主な御意見

資料４－１

（補助制度及び支援策について）

- 国が示す参加費のイメージは現実的に実施主体を運営することを考えると安すぎるが、それ以上の参加費を取って良いのか分からない。継続的に活動するためには、資金面が重要。また、補助制度がないと、時間や資金等に余力がある団体しか参画できず、子どもの選択肢が限られることになる。
- 参加生徒数によって実施主体の収入が異なることになるが、参加生徒数によって実施主体を運営できるかどうか左右されるべきではない。
- 募集要項に補助金や施設使用料に関する方向性が明記されていないと、地域・民間団体は応募しにくい。
- 生徒間のトラブルに関しては、運営団体も状況を把握するとともに、場合によっては、弁護士を手配するような支援策を明記すべきでは。

（中学校施設の利用について）

- 実施主体が校舎内に置かれているＡＥＤを利用する場合、体育館やグラウンド以外のエリアに教職員ではない人が入ることになるが、鍵の管理も含めてどのように対応するのか、また、京クラ関係者は学校施設のどこまで入って良いのかといったことを明確にしておく必要がある。

（京クラの応募について）

- 一つの場所（学校施設）に複数団体が実施主体として手を挙げる可能性もある。そういった場合も応募が被るからという理由で認定を見送るのではなく、複数の団体で一つの京クラを運営するなど、人的リソースで協力していくなど工夫する方法もあるのではないか。

（参加生徒の募集について）

- 京クラの生徒募集時に具体的な活動の方針を公表するようにしてはどうか。例えば、勝ちたい子とそうでない子が同じ団体に所属すると認識の違いでトラブルになりかねない。

（大会参加について）

- 地域展開後、京クラとして大会に参加することができるかどうかも、地域・民間団体が実施主体として手を挙げてくるかどうかに関係してくると思う。大会に出場できないとなると応募は減ることが想定されるだけに、教育委員会と中体連が連携して、大会参加のあり方を整理していかなければならない。

（募集要項に関するＱ＆Ａについて）

- ケガの時の対応等も含め、Ｑ＆Ａの内容をふくらませていく必要がある。
- 複数校の生徒が参加している場合の学校への連絡方法など、様々なケースに対応してＱ＆Ａを充実させていく必要がある。

（大学との連携について）

- 大学には、場所の提供や指導人材などで協力していただけたらありがたい。